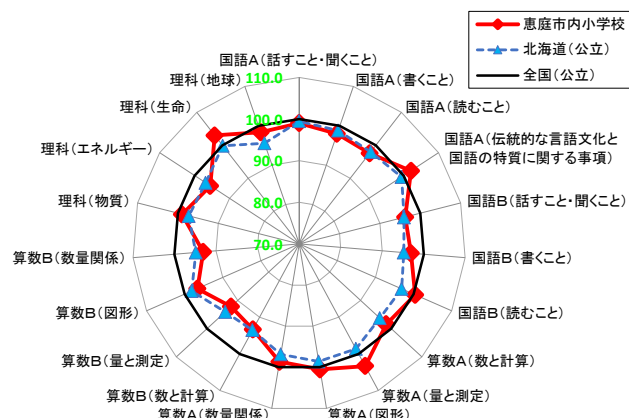


■ 恵庭市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:8校、児童数:636人)

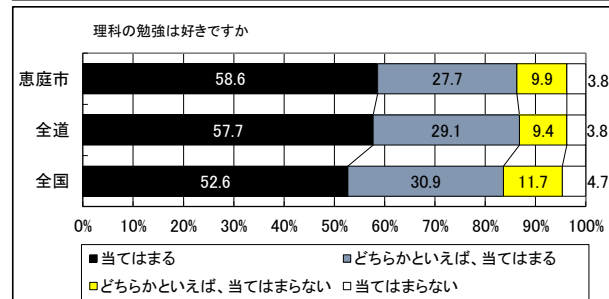
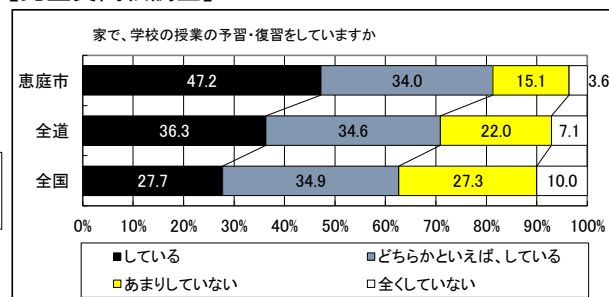
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを

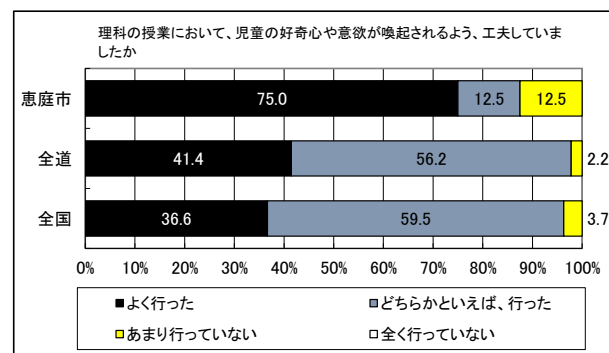
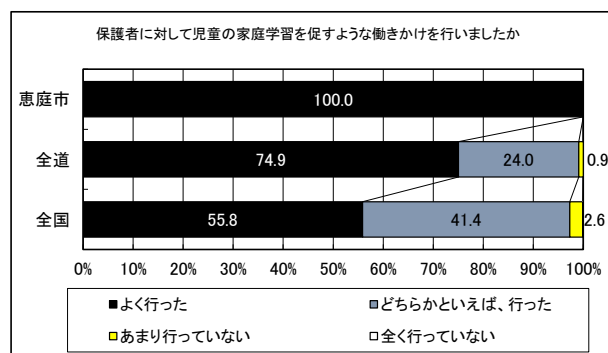
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	○ 国語Aでは、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、Bでは、「読むこと」で全国を上回っている。 ○ 算数Aでは、「量と測定」「図形」で全国を上回っている。 ○ 理科では、「生命」で全国を上回っている。	○ 学校が、保護者に対して児童の家庭学習を促すような積極的な働きかけを行ったことにより、家で学校の授業の予習・復習をしていると回答した児童の割合が高くなったと考えられる。 ○ 学校が、理科の授業において、児童の好奇心や意欲が喚起されるよう工夫したことにより、理科の勉強は好きと回答した児童の割合が高くなったと考えられる。
児童質問紙	○ 「家で、学校の授業の予習・復習をしている」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「理科の勉強は好き」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。	
学校質問紙	○ 全ての学校が、「保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけをよく行った」と回答している。 ○ 「理科の授業において、児童の好奇心や意欲が喚起されるよう、工夫していた」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。	

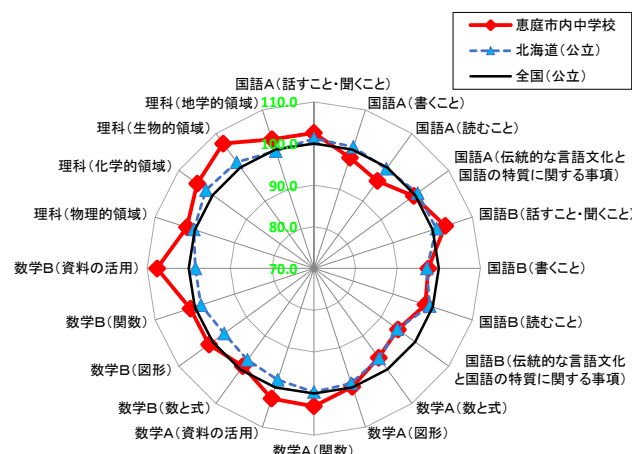
【恵庭市の学力向上策】

- ◎ 教育委員会内における学校改善プランの取組状況を検証する組織の構築、及びアドバイザー配置による改善サイクルの確立
- ◎ 小中連携教育推進委員会による、中学校区での円滑な小中接続を図る「中1ギャップ」解消に向けた取組
- ◎ ICT等の教育環境整備として、市内の小・中学校への電子黒板とデジタル教科書の導入
- ◎ 学校運営協議会設置の全市拡大に向けた取組(H30は若草小学校に設置)
- ◎ 退職教員等外部人材活用事業による理科支援員の配置や中学校教員による乗り入れ指導の充実

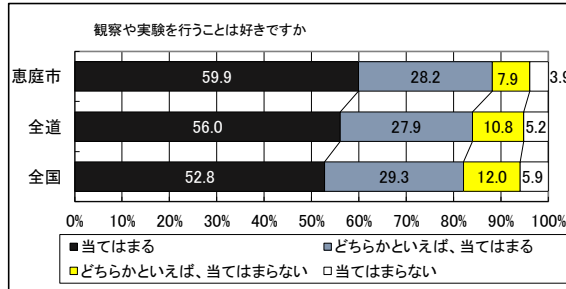
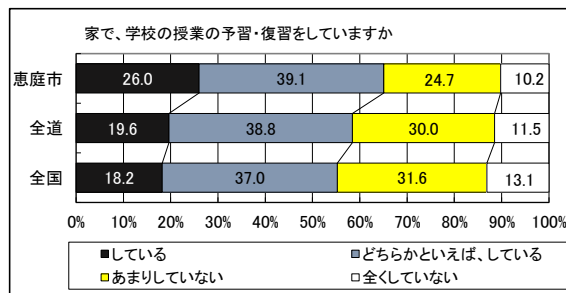
■恵庭市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:5校、生徒数:650人)

【教科全体の状況】

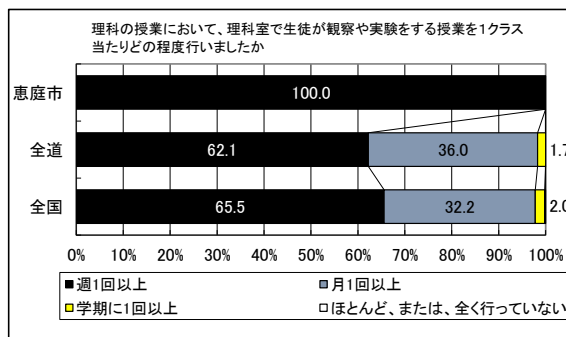
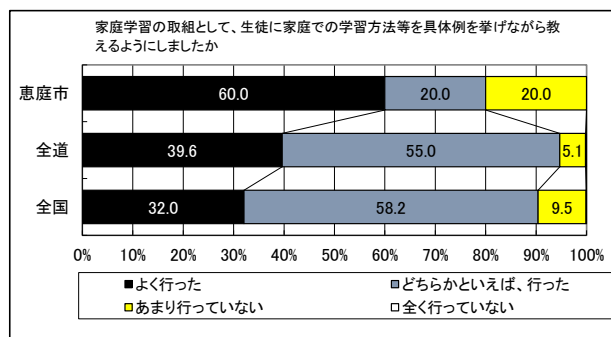
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	○ 国語A・Bともに、「話すこと・聞くこと」で全国及び全道を上回っている。 ○ 数学Aでは、「関数」「資料の活用」、Bでは、「図形」「関数」「資料の活用」で全国を上回っている。 ○ 理科では、全ての領域で全国を上回っている。	○ 学校が、家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしたことにより、「家で、学校の授業の予習・復習をしている」と回答した生徒の割合が高くなったと考えられる。 ○ 学校が、理科の授業において、理科室で生徒が観察や実験をする授業を1クラス当たり週1回以上行ったことにより、「観察や実験を行うことは好き」と回答した生徒の割合が高くなったと考えられる。
生徒質問紙	○ 「家で、学校の授業の予習・復習をしている」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「観察や実験を行うことは好き」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回っている。	
学校質問紙	○ 「家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにした」と回答した学校が、全国及び全道を上回っている。 ○ 全ての学校が、「理科の授業において、理科室で生徒が観察や実験をする授業を1クラス当たり週1回以上行った」と回答している。	

【恵庭市の学力向上策】

- ◎ 教育委員会内における学校改善プランの取組状況を検証する組織の構築、及びアドバイザー配置による改善サイクルの確立
- ◎ 小中連携教育推進委員会による、中学校区での円滑な小中接続を図る「中1ギャップ」解消に向けた取組
- ◎ ICT等の教育環境整備として、市内の小・中学校への電子黒板とデジタル教科書の導入
- ◎ 学校運営協議会設置の全市拡大に向けた取組(H30は柏陽中学校に設置)